

みんな、楽しんでね！

パネルキッズの パネルシアター



3月26日、パネルシアターの合間に行われた、パネルを使った手遊びの様子



手作りのパネルシアターでは子どもたちを夢中にさせる、多くのキャラクターが登場

パネルシアターとは、ネル地のパネルに、キャラクターなどを描いた特殊な紙をはり付けたり動かしたりして行う、いわばパネル上の人形劇です。三年前ほど前、乳幼児にパネルシアターを見てもらいたいと結成したパネルキッズ。現在七人で、全員が中学生です。三月二十六日、川越駅東口児童館で、パネルキッズによる七回目のパネルシアターが行われました。



手遊びのキャラクター作り。にぎやかに話しながら、1時間半ほどで完成しました

ある日パネルキッズは、パネルシアターをただ上演するだけでなく、もっと楽しんでもらう方法はないかと考えました。「自分たちで作った物を、楽しんでもらいたい」と制作を決意。試行錯誤の末、おとしのクリスマスの際に、初めて手作りのパネルシアターを上演しました。手作りのパネルシアターは、今回が三作目。物語からキャラクターまで、すべてパネルキッズが作ります。自分たちで作ると、愛着もわいてくるようです。本番当日。十一畳ほどの会場は、三十四人もの親子で満員です。まずは手作りのパネルシアターを上演。クイズ形式の物語で、子どもたちと会話も楽しめます。パネルを見つめる子どもたちの真剣な

目。すっかり夢中になったようです。最後には、子どもたちが流れる音楽に合わせて踊り出すほど、大喜び。「中学生なのにすごい。楽しい作品をありがとう」「自作とは思えないほど、絵も進行もうまいですね」と、保護者の皆さんからも大好評でした。

取材中、パネルキッズの活動を興味深そうに見ている小学生がいました。パネルキッズの皆さんも、三年前まで児童館を利用していました。今では演じる側となり、自分たちで計画を立て、練習して上演を行い、それを継続しています。パネルキッズの活動を支えているのは、小さな子どもたちを楽しませるために、何かをしようとする気持ちです。こんな気持ちを抱いた若い皆さんが、川越にもっと増えるといいですね。



後列左から渡辺優美さん・江原優美香さん・奥山菜奈さん・北島恵梨さん。前列左から青山愛子さん・宮本春菜さん・佐藤由希さん。後ろのパネルにあるのは、今回皆さんが作ったキャラクターたち

まちのできごと
川越市の面積は109.16km²

109パレット

市場の活気を皆さんへ

埼玉川越総合地方卸売市場では、3月から毎月第2・第4土曜日を「鮮度いちばん！ お客様感謝市」として、市場の開放を定期的を開始。威勢のいいかけ声が飛び交う場内には、新鮮な食材が勢ぞろいしました。来場した皆さんは、のこぎりや包丁を駆使して解体される大きなマグロに興味津々。やがて切り身になると、飛ぶように売れていきました。



初日の3月11日は、8,000人が訪れました

「引っ越し」がきっかけで、大きな交流へ

次回はことしの夏。
益子町で行われます

元スパークスのコーチが、益子町（栃木県）に引っ越したことがきっかけで始まった「益子町・川越市親善少年サッカー交流会」。

3月12日、23年目の交流会が川越運動公園で行われました。川越はスパークスとヤングス、益子町は田野FCと七井JSCが参加しています。毎回お互いの家にホームステイし、仲よくなっても試合は別。ゴール目指して、必死にボールを追いかけていました。



気分は戦国武将!?

川越に春の訪れを告げる「小江戸川越春まつり」のオープニングイベントが、3月26日に一番街などで行われました。ことしは、小田原市から北条手作り甲冑隊の皆さん24人が参加。川越藩火縄銃鉄砲隊と共に、オープニングを盛り上げました。仲町交差点付近で休憩の際には、市民の皆さんと写真撮影などで交流。かぶとを頭に掛けてもらい、子どもたちはうれしそうでした。



「次はボクだよ！」
順番待ちができるほど、
子どもたちに大人気

一番街で勝ちどきを上げました



野鳥図鑑と双眼鏡が、観察の時の必需品です。「鳥を見ないと1日が終わらないんですよ」

期待したいですね。新しい出会いもそうです。新しい出会いも力などを見ることができそうです。新しい出会いも期待したいですね。

「十五年ほど前、野鳥観察を始めた、娘について行ったのがきっかけなんです」と話す藤掛さん。さまざまな色をした野鳥に、胸が躍りました。外出のたびに、野鳥の姿を目で追うようになりました。今では見た目だけでなく、しぐさや飛び方などで鳥を見分けることができるそうです。

最近、双眼鏡を手に散歩している人も多く見られます。「観察を始めてから、少しずつ鳥の種類も増えてきました。毎年どんな鳥がやってくるか楽しみです」と目を細めます。これからの季節は、ヒバリやツバメ・コチドリ・セツカなどを見ることができそうです。新しい出会いも期待したいですね。



80種類以上の鳥を見分け、その数を記録

かわごえ
越
びと
23

藤掛保司さん（68歳・寺尾）